

2025 年度(令和7年度) 学校関係者評価委員会報告書

令和7年9月10日

学校法人駿河台学園

駿台観光&外語ビジネスカレッジ大阪

校長 豊田 基行

学校法人駿河台学園 駿台観光&外語ビジネスカレッジ大阪は、学校関係者評価委員会を下記の通り実施しましたので報告いたします。

1. 実施日時

令和7年8月22日(金) 15:00~17:00

各委員へ学校自己評価報告書を事前配布・評価をしていただき、議論いたしました。

2. 学校関係者評価委員(五十音順)

黒田 雅美(公立大学法人 大阪公立大学 経営戦略プロデューサー 特任教授)

菅田 智裕(CKTS株式会社 執行役員)

町口 俊祐(帝国ホテル大阪 営業部営業課 副支配人)

毛利 裕明(阪急電鉄株式会社 取締役)

欠席 岩瀬 泰弘(学校法人日本教育財団 大阪国際工科専門職大学 工科学部 情報工学科 講師)

草島 葉子(学校法人興國学園理事長 興國高等学校校長)

中岡 義久(学校法人西大和学園 大和大学 政治経済学部 副学長・教授)

3. 学校側出席者

豊田 基行(校長)

土井 省吾(副校長)

花尻 昌直(教務部長代理)

高田 英典(教務部次長)

木下 猛 (教務部 課長)

瀬川 好美(教務部 課長代理)

4. 議事報告(評価対象期間 令和6年4月1日~令和7年3月31日)

項目	委員からの評価・意見と今後の取り組みについて
【基準1】 教育理念・目的・育成人材像	適切(83%)・ほぼ適切(17%) 学校の教育理念・目的等について、学生には年度当初のオリエンテーション、保護者には6月保護者会を新規行事として実施、周知しました。委員より教育目標「V.I.G」の特に「I(Identity) 自己のアイデンティティの確立」を特色にしていきたいとのご意見をいただきました。各委員から全体的に「適切」の評価をいただきました。
【基準2】 学校運営	適切(67%)・ほぼ適切(33%) 2023 年度より人事評価システム「カオナビ」を導入し、複数人の評価者によるチェック体制で透明性を高めていますが、委員より「求められる人材像やあるべき姿、評価の仕組み等を示すことにより意欲がある方が更に高いモチベーションをもって活躍できる制度になればいいなと感じた」とのご意見をいただきました。

	また、情報システムについては円滑な運営に係る組織体制及び情報システム化に伴う教育活動の効率化について検討されてはどうか、とのご意見をいただきました。
【基準3】 教育活動	適切(100%) ①目標設定は、TOEIC スコア、資格試験のレベル級をシラバスに記載し、第1回目の授業ガイダンスにおいて学生に伝えています。②他の教育機関との単位の互換制度は可能であるが特に規程を定めておらずその時々での判断での対応に留まっています。韓国語学科の留学では単位認定をしているが、柔軟に対応していきます。③2024年度 TOEIC の授業時間を4単位から6単位に増やし、更にコーチング指導にて語学力をアップさせる体制を整えました。委員より「あるべき教員人材像を定め、それに基づく教員育成や採用などの人材基盤強化を図ることは重要」とのご意見をいただきました。
【基準4】 学修成果	適切(83%)・ほぼ適切(17%) 就職希望者の就職率は100%でした。TOEIC のスコアが入学時点よりも300点以上上がり、語学を活かす分野への就職が決まっている学生もいます。資格取得について、韓国教育財団から TOPIK(韓国語能力試験)5・6級合格実績が評価され奨学生制度適用者として数名が選出されました。また「サービス接遇検定」を実施されている公益財団法人実務技能検定協会から2023年度に引き続き「団体優秀賞」を受賞しました。
【基準5】 学生支援	適切(33%)・ほぼ適切(67%) 本校にとって、「保護者との連携」「卒業生・社会人とのかかわり」が課題であります。卒業生との関係が希薄になっており、教務課として定期的に連絡を取る体制を整える必要があるのではないかと考えているがマンパワー的に厳しいところであります。まずは最近の卒業生に対して何かアプローチするなど、できることから模索していきたいと考えています。
【基準6】 教育環境	適切(83%)・ほぼ適切(17%) 学外学習として、国内研修旅行、国内外インターンシップ、語学留学、ホテルステイ研修、企業研修などを行っています。留学生については企業・自治体、本校本科生とのコラボ授業、ビジネスコンテストへの参加、外国人留学生エキスポへの参加などを積極的に行いました。防災・安全管理の面では今年度より安否確認システムを導入しました。委員より「災害発生時の行動マニュアルがないということだが、早急で作成すべきで日本語版だけでなく少なくとも英語版も必要」とのご意見をいただきました。
【基準7】 学生の募集と受入れ	適切(100%) 高校生が気軽に参加しやすいように数多くのオープンキャンパスを設定しています。これまでの「個別相談会」という名称をなじみやすい「平日ミニオープンキャンパス」に変更しました。入学選考については面接試験を課しており、留学生については日本語能力を判断するため筆記試験を必須としています。各委員から全体的に「適切」の評価をいただきました。
【基準8】 財務	適切(100%) 日本人コース募集においては非常に厳しい環境にあるが、留学生募集は活況を呈しています。令和6年度の収支状況を底として令和7年度以降は改善に向かうものと考えていますが、近年の物価高騰に伴い、一層の経費削減を心掛ける必要があります。

<p><b>【基準9】</b> 法令等の遵守</p>	<p>適切(100%) 法務に関する事項は、学園法務部が法令遵守についての総合的な管理にあたっています。学校関係者評価委員からの指摘事項は真摯に受け止め改善してまいります。各委員からは全体的に「適切」の評価をいただきました。</p>
<p><b>【基準10】</b> 社会貢献・地域貢献</p>	<p>適切(33%)・ほぼ適切(67%) 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献がまだ不十分であるが、2023年度より生涯学習講座(大人の教養講座)を開催、2025年2月に地域の小学校PTAイベントに学習施設を貸与するなど徐々に取り組んでいます。また、地域貢献として学生による近隣清掃活動も積極的に行っています。本学では学生のボランティア活動を推奨していますが、企業実習や留学を実施していることもあり、ボランティア活動まで手が回らない状況です。今後ともボランティア活動に対する評価・単位認定について周知するよう努めて参ります。</p>